

TDU Agora



理工学部開設40周年 記念式典・祝賀会・記念シンポジウム開催 1

CONTENTS

| | |
|---|----------------------|
| 今月の顔 松浦昭洋准教授 (理工学部情報システムデザイン学系) ... 3 | 中学校・高等学校 8 |
| キラリ★電大生 情報環境学部 サイクリング部 4 | TOPICS 9 |
| 働く電大人 富木淳史さん (平成19年先端科学技術研究科修了) ... 5 | キャンパスよもやま情報 10 |
| TDU LABO 反応工学研究室 (工学部応用化学科) 6 | News 11 |
| 「電大ガールズ」D-girls 6 | Information 15 |
| 学び探求 総合英語Ⅱ (工学部情報通信工学科・未来科学部情報メディア学科) ... 7 | |



理工学部開設40周年記念式典



特集

理工学部開設40周年

～記念式典・祝賀会・記念シンポジウム開催～

埼玉鳩山キャンパスは、昭和52年(1977年)4月に埼玉県鳩山町に開設し、本年開設40周年を迎え、現在は約3,000名の学生が学んでいます。平成30年度には新たに3学系を設置、また成績優秀者を対象とするオナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)を新設し、幅広い知識を有し専門性の高い人材の育成を目指します。

この度、11月3日(金・祝)に開設40周年を記念して、記念式典および祝賀会が開催されましたので、当日の様子をご報告します。

記念シンポジウム

記念式典に先立ち「宇宙が拓く科学技術の未来」と題した記念シンポジウムを開催しました。青木豊彦氏(株式会社アオキ取締役会長、東大阪市モノづくり親善大使、大阪市立大学学長特別顧問)と本学卒業生の千葉隆文氏、相川昭仁氏(お二人とも三菱電機株式会社勤務)の3名をパネリストにお迎えし、それぞれご講演をいただいたあと、建築・都市環境学系の島田政信教授がコーディネーターとなりパネルディスカッションを行いました。質疑ではご招待者や本学学生からの宇宙開発に関する質問等に対して、パネリストの方々から研究への情熱やこれからの若い世代の人たちへの励ましが込められた回答がありました。



青木豊彦氏



パネルディスカッション

記念式典

午後から挙行された記念式典では、冒頭主催者を代表して川井悟理工学部長から挨拶があり、昭和52年に開設した理工学部の日々までの歩みについて報告がありました。引続き安田浩学長による式辞、来賓を代表して小峰孝雄鳩山町長による祝辞、鳩山町の指定無形民俗文化財「泉井神社 ささら獅子舞」を泉井神社ささら獅子舞保存会の皆様により披露していただきました。

「泉井神社 ささら獅子舞」は、子どもたちが踊る3頭の獅子と花笠、猿田彦、行司、万燈、笛唄で構成される獅子舞で、悪魔退散、無病息災、五穀豊穡を祈願し、秋の祭礼で奉納されており500年の伝統行事です。



川井理工学部長



泉井神社 ささら獅子舞

祝賀会

会場を学生食堂「樗」と「HATO CAFE」に移し、記念祝賀会を開催しました。理工学部応援団の協力による校歌斉唱、加藤康太郎理事長によるご挨拶、ご来賓による鏡開き、松尾隆徳校友会理事長による乾杯のご発声の後、祝賀会が盛大に執り行われました。

ご招待者、元教職員、卒業生等、総勢554名の皆様にご出席いただき、会場内は恩師や懐かしい顔ぶれが揃い大変な賑わいとなりました。

最後は神戸英利大学院理工学研究科委員長による中締め・万歳三唱で閉会となりました。

今後も本学教職員一同、一丸となって建学の精神である「実学尊重」、教育・研究理念である「技術は人なり」により、「技術で社会に貢献する人材の育成」に努めていく所存です。



鏡開き

平成29年度 東京電機大学ホームカミングデー 開催 ～同窓生、恩師との再会～

11月4日に東京千住キャンパスにて、ホームカミングデーを開催しました。

当日は午前中からキャンパスツアーや同窓会合いの広場を実施し、午後からは全卒業生の方を対象とした「歓迎会」と5年毎卒業生の方を対象とした「懇親会」を開催しました。（懇親会の対象卒業生は、昭和17・22・27・32・37・42・47・52・57・62年、平成4・9・14・19・24年の卒業生です。）

歓迎会では出席者全員での校歌斉唱に始まり、加藤康太郎理事長、安田浩学長、松尾隆徳校友会理事長より本学の近況や新しい取り組み等についてご説明がありました。

引き続き行われた懇親会では、始めに相原浩一大学同窓会長よりご挨拶並びに乾杯のご発声をいただきました。卒業生の皆様が同窓生や恩師の先生方との再会を果たされ、会場のあちらこちらで懇談のひとつを過ごされる姿が見られました。懇親会の最後には丸山孝一郎学賓よりご挨拶をいただき、参加者全員による三本締めで締めくくられました。

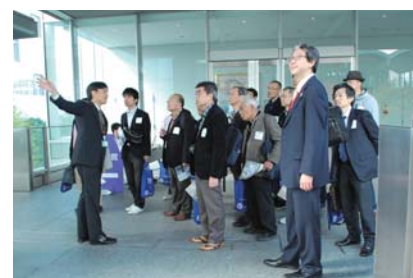
今年は卒業生・教職員を合わせて554名の方にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。各関係者の皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、来年度以降のより良いホームカミングデーの開催に向けて引き続き努力してまいります。



加藤理事長より本学の近況について説明



参加者全員で校歌斉唱



キャンパスツアー

数理と情報技術で、心豊かに生きられる社会に貢献する ～革新的な情報システムやコンテンツを作る～



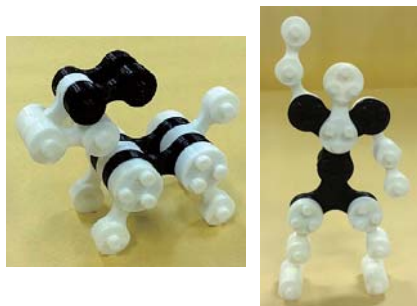
理工学部情報システムデザイン学系
松浦 昭洋 准教授

研究テーマ

大学院修士課程まで数学、特に幾何学を学び、博士課程ではアルゴリズムの基礎理論で学位を取得しました。本学着任後は、アルゴリズムの研究に加え、インタラクティブシステムやデジタルファブリケーションなど、ユーザに近いレイヤーにも研究領域を広げています。より根本的な問いや発想を起点に、数理・情報システム・コンテンツ・メディア表現などの複合領域で、革新的な成果を生み出すことを目指しています。

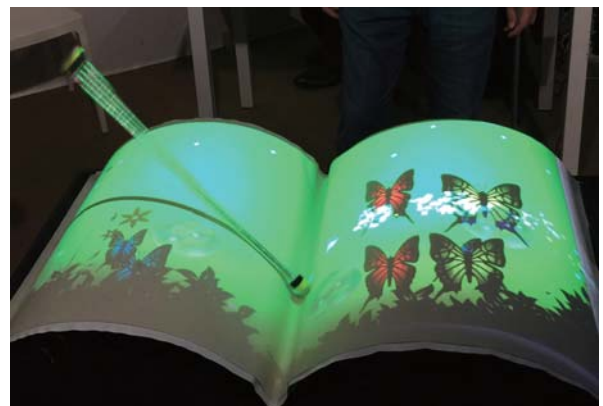
最近の研究紹介

最近生まれた成果を2つご紹介します。我々は約5年前に3Dプリンタを入手し、幾何図形を利用した構造物や玩具の研究を進めてきました。その中で、複数の円を用いた図形に着目し、厚みと突起をつけてブロック化。幾何形状・有機形状などの豊かな形態生成力をもつことを確認し、技術の特許化しました。玩具メーカー（ピープル株式会社）との共同開発により、本年7月に同技術を利用したブロック玩具「ルミノイド®」が発売されました。



考案したブロックの一部と作例

また、曲面ディスプレイ上でボタンを操作するインタラクティブシステム Stick'n Rollを開発しました。これは上向きに設置した曲面ディスプレイ上でボタンを転がし操作するプレイフルでエンターテインメント性の高いシステムです。本成果は、フランスのル・モンド紙に取り上げられ、ゲーム開発者の会議CEDECのセッションで大賞を受賞したり、デジタル絵本の国際コンペで入賞するなど高い注目を集めました。



Stick'n Roll (戸根弘貴氏らと共同開発)

今後について

人工知能やロボット技術が進展し、人の多くのタスクを代替するようになったとき、人はこれまで以上に、より根源的な欲求、特に喜びや楽しみ、広い意味でのエンターテインメントに多くの時間を割くのではないかと考えています(自動運転が実現すれば、車の中も新たなコミュニケーション空間、エンターテインメント空間になりそうです)。そんな時代を見据え、人の心・知能・身体全てに栄養となるような斬新で良質な情報システムやコンテンツを作りたいと考えています。

Profile

松浦 昭洋 准教授 プロフィール
(理工学部情報システムデザイン学系)

- 1994年 3月 京都大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了
- 1994年 4月 NTTコミュニケーション科学研究所研究員
- 2002年 11月 京都大学大学院情報学研究科通信情報システム専攻
博士後期課程修了 博士(情報学)
- 2003年 4月 東京電機大学理工学部情報システム工学科 助手
- 2008年 4月 東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系
准教授



キャンパス近くのサイクリングロード

情報環境学部 サイクリング部

数々のロードレースに出場 「榛名山ヒルクライム」では団体1位を獲得

情報環境学部 サイクリング部
部長 入江 真州(情報環境学部3年)

情報環境学部サイクリング部の主な活動は、ロードレースへの出場と長距離サイクリングです。ロードレースについては、シマノ鈴鹿ロードレースや榛名山ヒルクライム、もてぎ7時間エンデューロなどのジャンルの異なる様々な大会に出場しています。今年の榛名山ヒルクライムは部として初めての出場でしたが、エントリーした3人1組の合計タイムを競う榛名神社コースで団体1位を獲得することができました。この結果が評価され、今年度の大学同窓会による奨励賞を受賞することができ、大変光栄に思います。

練習は基本的には個人で行いますが、みんなで一緒に練習を行うこともあります。千葉ニュータウンキャンパスは手賀沼や印旛沼などのサイクリングロードが近くにあるため、そこを利用して練習を行う部員もいれば、家や部室でローラー台などの練習器具を用いて練習を行う部員もいます。千葉は平野のためほとんど山はなく、ヒルクライムの練習をするには片道60キロほど離れている筑波山まで行かなくてはならず、榛名山が初のヒルクライムの部員もいました。

長距離サイクリングは、春休みに行われる房総半島一周のみとなっています。毎年恒例行事で、1泊2日で280キロ程走ります。宿泊地の館山では美味しい海の幸を食べたり、途中で美しい自然の中を走ったり楽しみなこともあります。

来年度は、情報環境学部の千葉ニュータウンキャンパスから東京千住キャンパスへの移転に伴い、東京千住キャンパスサイクリング部と一緒に活動することになっています。情報環境学部サイクリング部としては今年度で終了しますが、悔いの無いように活動していきたいと思います。また、来年度の東京千住キャンパスサイクリング部との合併を新たなスタートとして、頑張っていきたいと思います。



榛名山でのヒルクライム

世界初の超小型深宇宙探査機の研究

～平成29年度文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)受賞～



JAXA 宇宙科学研究所
助教

富木 淳史さん

平成19年 先端科学技術研究科
情報通信メディア工学専攻修了
ワイヤレスシステム研究室
(小林岳彦教授)卒業生



H-IIA ロケット26号機に搭載された超小型
深宇宙探査機「PROCYON」

平成26年12月3日、種子島から打ち上げられたH-IIA ロケット26号機は小惑星探査機「はやぶさ2」と、3機の相乗り小型副ペイロードを深宇宙の軌道に投入しました。その小型副ペイロードの1機が東京大学とJAXAが共同開発した、超小型深宇宙探査機「PROCYON」です。この挑戦は教員と学生が深宇宙探査機を低コストに開発・運用するという新時代の幕開けとなりました。

一般的に探査機が小さくなると、太陽電池による発電能力も小さくなり、結果として小型の探査機は大型の探査機と比較して、送信機出力が小さく通信速度が遅くなるという問題が生じます。これを解決するために搭載通信システムの開発の中で一貫して取り組んできたことが、①先端民生技術を積極的に採用し小型・軽量化、②窒化ガリウム(GaN)高効率半導体増幅器による電力効率の改善、③パッチアレーアンテナによる実効輻射電力(EIRP)の改善です。

人工衛星は、そのほとんどが電気で作動するので、いわば放射線・機械環境条件といった宇宙環境に特化された電気製品です。現在の地上の通信技術はいまや日進月歩の状況であり、こうした技術を活用することができれば、従来の部品を使用するよりも、遙かに小型で高性能な通信機を作ることができます。また超小型衛星のミッション期間は短くかつ低コ

ストである必要があるため、こうした民生技術を活用する設計思想とうまくリンクすることができます。

太陽電池パネルを展開しても縦横1.5m、高さ55cm、重量約65kgの中に、深宇宙通信に必要な機能をすべて詰め込むことが可能になりました。15Wの送信機出力とパッチアレーアンテナによる高利得アンテナの組み合わせにより、臼田宇宙空間観測所にある直径64mのパラボラアンテナを使用することで、約0.45AU[天文単位]=約6700万kmの距離において4kbps以上の通信速度を出すことができます。この通信速度を見て驚かれる方もいらっしゃるでしょうが、深宇宙通信では高速といっても、残念ながら地上の携帯電話に代表される移動体通信よりも、はるかに遅いというのが現実なのです。

最新技術の投入と打ち上げ後の軌道上運用の成果により、PROCYONは超小型衛星の活動領域を地球近傍から、より遠くの深宇宙空間に広げることができました。こうしたプロジェクトチームの功績が、平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)(受賞業績:世界初の超小型深宇宙探査機の研究)として評価されました。今後も超小型探査機を通じて、将来の多種多様な宇宙科学ミッションの実現に貢献できるよう努力していきたいと思ひます。



教員と学生による超小型探査機の実運用



代表として授与式に出席した左から筆者、船瀬龍先生(東京大学)、小泉宏之先生(東京大学)

反応工学研究室 ～フラスコからプラントへ～

工学部 応用化学科
小林 大祐 准教授

反応工学とは、応用化学科で学ぶ柱の1つの化学工学の一分野です。化学工学では、化学製品の原料から製品に至るまでの仕組みや装置などを研究します。化学は実験を重視する学問ですが、工業への利用には、数mL、数gの薬品を扱うフラスコレベルの実験ではなく、実際の装置を使って数t、数10tの生産を考えなくてはなりません。そのスケール感が化学工学の特徴の1つです。木を見て森を見ずに陥らないように気をつけて研究を進める必要があります。

研究室では主に次の3つのキーワードで研究テーマが分かれています。水素エネルギー、超音波、ファインバブルの3つです。水素エネルギーではメチルシクロヘキサンなどのような有機ハイドライドに着目しています。メチルシクロヘキサンを脱水素化すると水素とトルエンが生成します。一方、トルエンは水素化することで再びメチルシクロヘキサンに戻ることができます。このような物質は水素の輸送貯蔵媒体として着目されています。超音波とファインバブルでは、化学反応の促進や直接的な水質浄化、半導体など精密部品の洗浄といった応用研究につなげるための研究を行っています。特に超音波は私が学生時代から取り組んでいた研究テーマで、15年近く続けていますが、まだまだ解明されていないこと



イスタンブールでの発表

が多いので、なぜだろうという現象に今でも多く遭遇します。継続するということが何事においてもとても重要なことです。

学会も同じ会議に継続して出席すると多くの知り合いができ、研究の幅が広がります。超音波化学の国際会議が2年に1度ヨーロッパで開催されており、2008年から毎回出席していますが、昨年6月下旬にイスタンブールで開催されました。そうです、空港で爆破テロのあった時にまさしくイスタンブールに滞在していました。開催中は気になる中での発表となりましたが、無事に終えることができました。



研究室の学生と

「電大ガールズ」D-girls

今年の学園祭(旭祭)もD-girlsからは「ベビーカステラ」を販売しました。豆腐を入れたことにより、ひと味違うふわふわ感を楽しんでもらえたと思います。新しいトッピングのキャラメルソースも好評でした。小さなお子様には特に人気で、両日完売することができました。ありがとうございました。

現在はD-girls主催のクリスマス会(12/16)の準備を進めています。東京電機大学の学生・教職員の方ならどなたでも参加できますので是非お越しください。

工学部環境化学科3年
野垣 祐子



総合英語Ⅱ

～異文化発見プロジェクト～

工学部 情報通信工学科・未来科学部 情報メディア学科 1 年後期
 未来科学部英語系列
 大森 夕夏 講師



1年生の「総合英語Ⅱ」のクラスで、「異文化発見プロジェクト」をPBLの授業形式で行っています。異文化に関して不思議に思うことを学生各自が持ち寄り、班ごとに1つのテーマに絞り、その謎を解いていきます。今期、各班から出されたテーマは、「世界各国の結婚式」、「カナダとアメリカの違い」、「人はなぜホラー映画に惹かれるのか」、「ポルトガルの人気者ガロ」、「世界各国のコンビニ」、「聖パトリックの祝日」、「日系ブラジル人」でした。なぜこのテーマに興味を持ったのかを、高校時代の課外活動や夏休みの旅行などの自分の体験を糸口として他の学生に聞かせて関心を集め、英文読解の授業へと入っています。

授業の導入から英文読解用資料作り、授業進行から解説に至るまですべて学生主導で行っています。班の中で役割分担し、一人一人が責任を持って授業に参加しています。読解活動の前半では担当班がフロアの学生に内容確認の質問を行い、後半ではフロ

アの学生が担当班に内容や英語表現に関する質問を投げかけます。時に教員の方から補足説明することもあります。フロアの学生同士の解釈が割れたときや担当班の説明に納得がいけないときは、フロアから教員に対して「先生の考えをお聞かせください」と躊躇なく要望が寄せられます。そこで教員もフロアから自分の解釈や見解を発表します。皆が平等に自由に意見交換を行うことができる活発な授業となっています。

学期末には、テーマに関して自分たちが発見したことを英語でまとめて発表します。このプロジェクトを通して、学生が非常に豊かな体験を持っていること、好奇心旺盛であること、自分にとっての驚きの体験を皆に伝えたいという熱意を持っていることがよく分かります。英語を学びながら異文化の不思議に目を向け、それを探究し共有する喜びを皆で味わえるような授業にしていきたいと思っています。



指導する大森講師



発表する学生

技術革新者の名言とエピソード vol.4

“大航海時代から植民地支配にいたった”

羅針盤の発明

世界三大発明の起源、古代中国四大発明

(エピソード)

磁石は、紀元前600年頃に中国の慈州、ギリシアのマグネシア地方で産出し現在の名前の由来になった。中国では磁石をスプーン型にした指南器が作られ、後に東西南北等を示す盤が作られ方位また風水占術の道具とした。

紀元前300年頃には、水に魚の形の木片に磁針を埋めた「指南魚」を浮かべて方位を調べた。羅針盤が記録に登場するのは11世紀(宋時代)で、これにより東シナ海、インド洋、ペルシア湾等を経て中東に至る「海の道」で使われ、アラビアや欧州に伝わった。マルコポーロが中国から持ち帰り改良されたとも言われ、世界三大発明のひとつとなった。

羅針盤の登場により15世紀には遠洋航海が可能となり大航海時代を迎え、世界貿易、さらに鉄砲の発明でヨーロッパの植民地支配が広がっていった。

修学旅行レポート

2017年10月10日～13日

中学校・高等学校

中学
3年生

京都・奈良

3泊4日の日程で京都・奈良を巡ってきました。京都・奈良の行程ですと京都2泊が一般的だと思いますが、本校は奈良中心です。

初日、着くなり飛鳥地方を自転車で巡ります。美しい田園地帯に点在する史跡を班ごとにまわりました。天気にも恵まれ気持ち良かったのですが、坂の多さに自転車では厳しかった…。

2日目、薬師寺、法隆寺、東大寺の大仏さんを見て奈良市内を班行動。鹿と戯れる写真がたくさん撮れました。

3日目、奈良から京都へ行くのも班行動です。奈良の宿舎を出て京都市内の寺社や史跡などを見学、夕方京都で集合しました。

最終日、嵯峨野を班ごとに巡りました。小雨交じりでしたが有名な竹林や渡月橋に感激。締めくくりにお寺で精進料理をいただきました。とにかく班行動が多い修学旅行です。その分、綿密な計画と責任が求められます。生徒達は緊張して疲れたことと思いますが、一回り大きくなったと感じさせる4日間でした。(中学校教諭 鈴木)



鹿と戯れる生徒



お寺で精進料理をいただきました

高校
2年生

福岡・佐賀・長崎

3泊4日で福岡、佐賀、長崎を巡る修学旅行に行ってきました。毎日28度近くの気温で真夏を感じるような暑さの中、さまざまな体験をしました。

1日目、太宰府天満宮では祭られている菅原道真公に高3での受験を成功させるべく、みんなで祈願しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡では国際化の波を受け、ボランティアガイドの方が外国語を交えてガイドをしてくださいました。

2日目、長崎県平戸の自主研修ではオランダ人との交流跡が見られる史跡を巡りました。その後、個人で選択した九十九島巡りと手びねりコース、ハウステンボスコースに分かれました。夜は修学旅行のメインとなる、被爆体験者の下平作江先生の話の拝聴しました。体調の悪く、一生懸命話してくださるその姿に生徒たちは貴重な体験であることを自覚し、翌日の原爆資料館でさらに理解を深めていました。生徒たちのレポートには、「戦争を体験したことのない自分たちがどうやってこれを将来に語り継いでいけばいいのか」と真剣に考えている姿が読み取れました。

3日目の自主研修は長崎で近世から現代までの長崎を垣間見、そしてクラスごとに2艘ずつ乗り込んで体験した長崎伝統行事「ペーロン競漕」では、力を合わせることを大変さを知りました。

最終日は雲仙普賢岳の被災地を見学し、災害からの復興がいかに大変かということを痛感させられました。この4日間で生徒たちは事前学習で学んだことを目の当たりにして見聞を広め、一生懸命に吸収していました。

(高等学校教諭 山田)



吉野ヶ里遺跡



ペーロン競漕を体験



Dr. Ake Rosenqvistによる講演



熱心に聴講する参加者

CRC(研究推進社会連携センター)フォーラム

宇宙から見た地球環境の変化 ～これからの環境、防災、エネルギー～

研究推進社会連携センター

研究推進社会連携センターでは、研究者の研究活動を広く知ってもらうこと及び研究者間の交流を広げることを目的とし、CRCフォーラムを定期的に開催しています。第13回CRCフォーラムとして「宇宙から見た地球環境の変化～これからの環境、防災、エネルギー～」を10月13日に開催しました。

基調講演では日本ソロ地球観測合同会社代表のDr. Ake Rosenqvist(オーケ ロゼンクヴィス博士)と理工学部建築・都市環境学系の島田政信教授のお二人より、地球観測衛星のデータを活用した森林観測の現状とその意義、将来についてご講演をいただきました。

その後、研究紹介として工学部電気電子工学科の加藤政一教授、理工学部生命理工学系の椎葉究教授、研究推進社会連携センターの小林亘教授より発表していただき、最後に大学院生による7件のポスター発表を行いました。

今回、学内外から61名の方が参加され、「東京電機大学の幅の広さを痛感した」、「ポスター発表を行った学生の熱意が伝わってきた」等の声があり、非常に有意義なフォーラムとなりました。

今後もこのフォーラムが研究活動の広報及び研究者間の連携強化の一助になれるように取り組んでまいります。



大学院生によるポスター発表

FD/SDセミナー

学習効果を高める シラバスの書き方

教育改善推進室

教育改善推進室では、教職員向けに「教育」に関する研修としてFD/SDセミナーを開催しています。FD(Faculty Development)という言葉は、「教員向け研修」という意味で捉えられていますが、教育改善推進室では「教育」に関する事を「教職員」で学び、本学の教育がより良くなることを目的としたテーマ(授業デザインや教授法など)でセミナー等を行っています。

10月19日に、FD分野の第一人者である佐藤浩章先生(大阪大学全学教育推進機構)をお招きし、「学習効果を高めるシラバスの書き方」をテーマに埼玉鳩山キャンパスと東京千住キャンパスでセミナーを行いました。

日米におけるシラバスの成り立ちの違いや、科目の目的・目標・効果的なスケジュール・評価といったお馴染みのシラバス記載項目をどのように記述し、授業デザイン(科目全体の設計や運営方針)とどう結びつけるかという説明がありました。意見交換の場面では、本学参加者以外にも他大学や高等学校などからお越しいただいた多くの教職員の方々と活発な討論や教育談義が行われ、充実度の高いセミナーとなりました。

当日の様子は、教育改善推進室のウェブサイトにて、後日ご紹介する予定です。

<https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/activities/oed/effort/>



講師の佐藤浩章先生

東京千住キャンパス

「秋の地域清掃活動」への参加



11月17日に、足立区の「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の一環として、地域清掃活動が行われ、本学キャンパスプラザに地域の中学生を始め商店街や官公署の方々が集合しました。

各自、オリジナルの帽子やビブスを身に付け、参加者約300名が4つのグループに分かれて各区域を清掃。寒さが深まる中、元気一杯な中学生達と無事に活動を終えました。 (管財部 田淵)

千葉ニュータウンキャンパス

東京千住キャンパスで見学会 開催



休講日の11月6日と7日に、千葉ニュータウンキャンパスの学生を対象とした東京千住キャンパス見学会を開催しました。和田情報環境学部長による見学会開催主旨の説明後、学修・学生生活における留意点の説明を1時間行い、5号館や2号館をはじめ主な施設を1時間程度のツアー形式で巡りました。

両日合わせて42名の学生が参加しましたが、初めて東京千住キャンパスを訪れる学生もあり、今回の「体験」をきっかけに、学生の移転準備に対する意識がより高まることに繋がればと思います。

(情報環境学部事務部 岩淵)

東京神田キャンパス 神田古本まつり

10月27日から11月5日に神田神保町にて、神田古本まつりが開催されました。この古本まつりはメインイベントである「青空古本市」を始め、トークイベントや講演会、展示会など神保町界隈にて各種イベントが行われます。

今年で58回を数える歴史ある古本まつりですが、近年は外国の方の姿が多く見られ、路上が混雑する中、日本の歴史書や雑誌に興味を示していました。



(出版局 木場)

埼玉鳩山キャンパス

テレビ埼玉「マチコミ」出演



10月27日に、理工学部の学生3名がテレビ埼玉の情報番組「マチコミ」に出演しました。番組内では11月3日に行われる理工学部開設40周年記念式典の告知や、11月3日～5日に開催される鳩山祭の見どころを紹介しました。

良い宣伝になり、鳩山祭は多くの来場者を迎えることができました (理工学部事務部 高木)

東京小金井キャンパス

自転車安全教室



10月12日に、市の交通安全課主催で「スタントマンを活用した自転車安全教室」を開催しました。市内公立中高で行われていたものが3年前に私立中高でもと声がかかり、以来2度目の実施となりました。

中高の1年生を対象とし、プロスタントマンによるスクエアドストレート、小金井警察による自転車運転指導などが行われました。代表生徒数名が実際に自転車に乗り、「ながら運転」を体験するなど、その危険性について学びました。

(中学校・高等学校教諭 山内)

公立はこだて未来大学と連携協力に関する協定を締結

本学と公立はこだて未来大学(北海道函館市)が、平成29年9月1日付で連携協力に関する協定を締結しました。

公立はこだて未来大学は情報系単科大学として、情報社会のグローバル化に呼応しながら、システム情報科学を基軸にした人材の育成と研究の未来、そして地域の未来を拓くことを針路としています。本学のAI教育・研究の発展、および教育、社会連携の強化・推進など、両大学が連携協力によって双方の強みを生かし、互いに補完して更なる発展と社会的地位の向上に繋げることを目的として締結に至りました。

平成29年度 企業・東京電機大学懇談会

11月1日にホテルグランドパレス(千代田区飯田橋)にて、企業・東京電機大学懇談会を開催しました。

本学学生を採用いただいた御礼と次年度のお願いを兼ねて毎年開催しており、企業の採用担当の方399社539名と本学教職員101名が出席し、総勢640名での会となりました。

第一部の講演会では学長室長の平栗健二教授より大学の近況について説明があり、名刺交換会では各学科・学系の就職担当教員と採用担当者とのご挨拶が交わされました。

懇親会では、企業の皆様と教職員において活発な情報交換がなされ、盛況なうちに終了しました。



名刺交換会の会場

足立区主催「あだち国際まつり」へ参加

毎年、国際センターでは色々な国の音楽や言葉、料理を楽しめる「あだち国際まつり」(足立区主催)に協力しています。今年も11月3日にベルモント公園(足立区梅島)にて、学生団体「留学生会」の学生とともにブースを出展しました。

留学生は「言霊集め～ありがとうで世界をつなごう～」と題した自国の「ありがとう」の読み・書きを教える言語交流を、日本人学生はけん玉あそびを通じた文化交流を行いました。主に小学生を中心に750名ほどが本学ブースに来てくれました。多言語文化と日本文化を通して、国際交流と地域交流を図ることができました。



読み書きを教える留学生

安田学長が米民生技術協会(CTA)に殿堂入り

11月7日、安田浩学長が米民生技術協会(CTA)の殿堂入りメンバーに選出されました。エレクトロニクスの技術発展に貢献した人物をたたえる米民生技術協会(CTA)の「殿堂入り」は2000年に創設され、今年は新たに12名の方が殿堂入りし、11月7日ニューヨークのレインボールームで祝賀のディナーが催されました。

安田学長は、画像圧縮技術「JPEG」や「MPEG」の国際規格標準化に取り組み、現在のデジタル社会を支える基礎技術の発展に世界的な貢献をしたことが評価され殿堂入りメンバーに選出されました。



文部科学省 平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」に本学が採択

文部科学省の平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」に、本学の事業「グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体医工学拠点の形成」が採択されました。「私立大学研究ブランディング事業」とは、学長のリーダーシップのもと大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を打ち出す取組を支援するものです。

本学の事業は、長年にわたる医用工学研究とサイバーセキュリティ研究の実績を融合し、セキュアなIoT医療機器システムの開発を行う生体医工学拠点を形成します。アジアからの留学生も含めた人材育成を行い、十分に整備されていない環境でも使用可能で、メンテナンス性の高い医療機器システムの開発を産官学が連携して実践。「セキュアIoT生体医工学」＝「東京電機大学」を目指し、安全・安心・快適な社会の未来創造に貢献します。

受賞情報

顕著な活躍をした電大人を紹介します。



日野 雅司准教授
未来科学部建築学科
2017年度グッドデザイン賞
グッドデザイン金賞
(経済産業大臣賞)
平成29年11月1日



小林 享生さん(修士2年)
未来科学研究科情報メディア学専攻
(コンピュータグラフィックス研究室)
第17回ビジュアル情報処理研究合宿(VIP2017)
VIP Award 優秀賞
平成29年9月15日



千田 堯さん(2年)
工学部第二部機械工学科
全日本製造業コマ大戦 第3回もの大場所
3位入賞
平成29年10月29日



代表者
藤本 貴成さん(修士1年)
未来科学研究科建築学専攻
共同製作者
三輪田 真人さん(博士2年)
先端科学技術研究科建築・建設環境工学専攻
奈良本 光太さん(修士1年)
山内 一輝さん(修士1年)
未来科学研究科建築学専攻
(建築・都市空間研究室)
第4回POLUS-ポラス-
学生・建築デザインコンペティション
テーマ「土蔵をつつむ今、今をつつむ未来」
佳作
平成29年6月29日



古川 亮さん(建築・環境計画研究室)
笠原 真紀さん(建築デザイン研究室)
柳沼 啓斗さん(建築構造デザイン研究室)
未来科学研究科建築学専攻(修士1年)
建築文化週間 学生グランプリ2017「銀茶会の茶席」
優秀賞
平成29年10月1日

(受賞日順)

後援会だより

千葉ニュータウンキャンパスと東京千住キャンパスで父母懇談会開催

10月21日(千葉ニュータウンキャンパス)と10月28日(東京千住キャンパス)に、父母懇談会を開催しました。千葉ニュータウンキャンパスでは情報環境学部、東京千住キャンパスでは工学部・工学部第二部の3・4年生のご父母を対象に開催し、大変多くの方にご参加をいただきました。(千葉ニュータウンキャンパス90組・122名、東京千住キャンパス230組・329名)

当日は大学の現況をご報告する全体会、学科説明会に続き、個人面談を行いました。ご父母の皆様は、熱心にご子女の様子を先生方に聞かれています。また施設や研究室等を巡るキャンパスツアーを実施しました。後援会より支援をした個人・団体(10組)による「後援会イベント支援事業成果発表会」の展示も行なわれ、盛況のうちに終了しました。

千葉ニュータウンキャンパスでは、来年度、情報環境学部の東京千住キャンパス移転に伴い、今回が最後の父母懇談会となりました。

ご参加いただきましたご父母の皆様ありがとうございました。



校友会だより

校友会都道府県支部のホームページをリニューアル

校友会ホームページ内にある各都道府県支部のホームページをリニューアルしました。

各支部ホームページの「支部活動報告」のバナーをクリックすると紹介記事が閲覧できます。校友会では支部総会や講演会のご案内など、リアルタイムで皆さまに活動をお伝えできるよう、随時更新していきたいと考えています。

<http://www.tduaa.or.jp/organization/district.html>



出版局 新刊のご案内

学生のためのPython

本郷 健・松田 晃一 著



B5判 196頁 2,700円

Pythonの初学者向け課題学習型テキスト。人工知能などの分野にも広がりを見せる。

<大学数学基礎力養成シリーズ>

丸井 洋子 著



●微分の教科書 A5判 168頁 2,484円

●積分の教科書 A5判 176頁 2,484円

微分・積分の要点に的を絞って解説。解き方を一つずつ理解しながら進められるよう配慮。



●微分の問題集 A5判 114頁 1,512円

●積分の問題集 A5判 144頁 1,512円

微分・積分の要点に的を絞って問題を厳選。授業の予習復習および定期試験対策として最適な一冊。

学生だより

学園祭を終えて

東京千住キャンパス
第6回 旭祭第6回旭祭実行委員会 委員長
工学部機械工学科機械工学コース
3年 大門 光平

11月4日と5日に、第6回旭祭が開催されました。今年も模擬店、展示、ライブ、パレードなど、より多くの方に感動していただけるよう工夫を凝らしてきたことと、天候にも恵まれご来場の方には喜んでいただけたのではないかと思います。4日にはホームカミングデーも開催され、多くの卒業生の方が訪れ、開催期間中は約7,300名の方にご来場いただきました。

最後に、旭祭期間中ご理解、ご協力を賜りました皆様には厚く御礼を申し上げます。第7回旭祭は、千葉ニュータウンキャンパスから移転してくる学生も加わります。今後も旭祭をよろしくお願い致します。

埼玉鳩山キャンパス
第41回 鳩山祭第41回鳩山祭実行委員会 副委員長
理工学部情報システムデザイン学系
2年 渡邊 柁仁

11月3日から5日に、第41回鳩山祭が開催されました。

初日は雨の予報で、企画していたファイヤードダンスの開催が危ぶまれていましたが、運よく快晴となり無事決行することができました。中日には急遽雨風が吹き荒れ、模擬店など早々に終わらせましたが、最終日には快晴となり心残りなく鳩山祭を終了することができました。今年初日に理工学部開設40周年記念式典も開催され、開催期間中は約5,500名の方にご来場いただきました。

最後に、鳩山祭を盛り上げてくれた方々に深く感謝申し上げます。



時代を越えて—東京電機大学の軌跡

創業・揺籃期(2) | Vol.04 |

〈明治40年～大正6年〉

大正3年から4年にかけて、次代を担う加藤静夫、佐久間正太郎、服部碩彦らが相次いで招かれ、職員講師に就任した。

明治44年、第1回電気事業主任技術者資格検定試験(当時の通称:通試)が実施され、全国の合格者19名中、本校関係者は4名を数えた。

この期間において特筆すべきことは財団法人の設立である。大正5年、それまで創立者廣田、扇本の個人経営であった本校は、ふたりの電機学校関係の一切の私財の寄付により、当時とし



第二代校長 加藤静夫

てはまだ数少ない財団法人として新しく久遠の生命が吹き込まれた。

本学園の今日の発展の基盤は、この時の創立者ふたりの英断によるところが極めて大きい。財団法人発足時の理事の職務分担は、総務理事廣田精一、財務理事扇本真吉、理事校長加藤静夫であった。

出典「学校法人東京電機大学75年史 小史」
(一部読みやすく修正しています)

Information

学園創立110周年記念講演 平成29年度東京電機大学大学院 「総合技術特別講義」開催 学長室

電子情報通信学会100年の偉業を顕彰する「電子情報通信学会マイルストーン」に本学初代学長 丹羽保次郎先生の「写真電送装置」をはじめ、本学関係者の業績が選定されました。電子情報通信工学と本学の関わりについて考えるため、当該マイルストーンの選定経緯と本学現役教員が係わった3件について紹介する、平成29年度東京電機大学大学院「総合技術特別講義」を学園創立110周年記念講演として開催します。

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 平成29年12月21日(木) 18:10~19:40 |
| 場 所 | 東京千住キャンパス1号館2階 1204・1205・1206セミナー室 北千住駅東口(電大口)徒歩1分 |
| テ ー マ | 電子情報通信工学と東京電機大学 記念講演 安田 浩 学長 「画像圧縮の国際化 JPEG/MPEG」 佐々木 良一 総合研究所長 「情報セキュリティと私」 小林 岳彦 国際センター長 「何が私を Ultra Wideband 研究 に駆り立てたか？」 |
| 参 加 費 | 無料(申込み不要) |
| お問合せ | 学長室 Tel. 03-5284-5202 |

東京千住キャンパス写真部 写真展開催

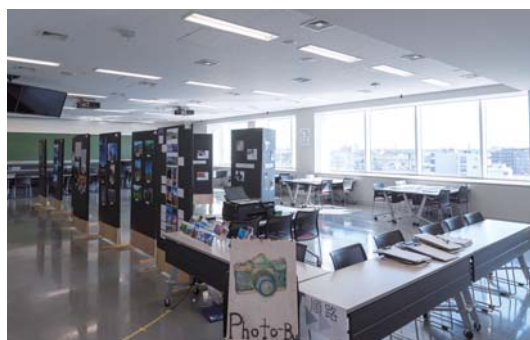
総務部企画広報担当

東京千住キャンパス写真部の写真展を開催します。

テーマは「私の1枚」。各部員が今までに撮った写真の中で、最も気に入っている写真を展示します。

また、写真を取りはじめた経緯や写真に対する想いについてもご覧いただけます。

| | |
|------|--|
| 日 時 | 平成30年1月10日(水)~1月30日(火) 10:00~17:00(日曜休館・入場無料) |
| 場 所 | 東京千住キャンパス1号館1階 電大ギャラリー 北千住駅東口(電大口)徒歩1分 |
| お問合せ | 総務部(企画広報担当) Tel. 03-5284-5125 |



学園祭(旭祭)での出展の様子

編集後記

各キャンパスの学園祭が無事終了しました。どのキャンパスも概ね天候に恵まれた秋晴れの学園祭となり、ご来場の方々から沢山のお褒めの言葉をいただきました。

情報環境学部の東京千住キャンパス移転に伴い、秋葉祭は今年が最後の開催となりましたが、来年の東京千住キャンパスで行われる旭祭は例年以上に盛り上がることでしょう。来年もまた皆様のご来場をお待ちしております。

TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail:soumu-kikaku@jim.dendai.ac.jp

https://www.dendai.ac.jp/



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。